（別紙3）

公表　児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいと			
○保護者評価実施期間	2025年 03月 01日	～	2025年 04月 30日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	30	（回答者数）	20
○従業者評価実施期間	2025年 03月 01日	～	2025年 04月 30日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9	（回答者数）	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 04月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	他の児童や指導員との関わりを通して、対人関係スキルや集団活動等で社会性を育てる。	SST、イベント、クッキング、季節行事等	お花見、クリスマス、ひな祭り等の季節行事をさらに取り入れ、児童同士の触れ合いを増やし、楽しんでもらうよう取り組む。 クッキングを通して、食育や食事マナーを伝える。
2	送迎の際に、当日の療育内容や体調を細かく説明し、情報共有しています。	どのようなことに取り組んだのかが分かりやすいように担当職員が、写真や動画を使い丁寧に説明し情報共有しています。	写真や動画説明が好評なため、引き続き取り組んでいこうと思います。
3	放課後、休日や長期休みの際に、安心して過ごすことができる居場所。	安全面の配慮、環境整備、決まったルールを取り入れている。	運動ゾーンや休息ゾーンを目的ごとに分ける。 子どもが困った際、この職員に伝えると良いと思える大人がいる安心できる環境。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会が無いこと。	地域交流を行う時間の確保が、難しい。	地域交流を行う機会を検討する必要。
2	保護者同士の交流が少ない。	お花見等の年数回の保護者会は行っているが、定期的に行う時間確保が難しい。	現在行っている保護者会は継続し、回数を増やすよう検討していくことが必要。

3	家族支援プログラムが少ない。	多様家族背景の対応	限られた時間の中で質の高いコミュニケーションを 行い、保護者交流会等の機会を設ける。